

(別紙様式 3)

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局 名	北陸農政局
-----	-------

都道府県名	富山県	関係市町村名	とやまし 富山市
事業名	農業集落排水事業	地区名	さんごう 三郷地区
事業主体名	とやまし 富山市	事業完了年度	平成16年度

〔事業内容〕

事業目的：本地区には農業用水として三郷利田用水^{さんごうり たようすい}が位置しており、当地区及び当地区下流の受益地などへ用水を供給しているが、近年の生活様式の変化等で、水質汚濁が進行してきていた。また生活環境の改善と併せて地元から下水道整備の強い要望があり、農業用排水の水質保全等を早期に行うことから、農業集落排水事業を実施した。

計画戸数：749戸

計画人口：3,360人 計画人口＝定住人口2,507人＋流入人口848人

主要工事：処理施設1箇所、管路施設26.2km

総事業費：3,751百万円

工期：平成11年度～平成16年度

〔項 目〕

ア 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

1 快適性及び衛生水準の向上

- 平成22年4月1日現在での定住人口2,050人（718戸）に対する水洗化人口は1,415人であり、水洗化率（水洗化人口／定住人口）は69.0%である。

（出典：富山市調べ）

2 公共水域の水質保全

- 污水处理施設で処理された水は、農業用排水路に放流され、二級河川白岩川^{しらいわがわ}へ流下している。
- 事業計画時（平成10年）と最近（平成21年）の白岩川の水質調査結果は下記のとおり、全て基準値以下である。
- 水質調査データ（二級河川白岩川、東西橋地点^{とうざいばし}）

	平成10年	平成21年	（水域類型：A準拠）
pH	7.2	7.6	（基準値6.5以上8.5以下）
BOD	1.1mg/ℓ	1.1mg/ℓ	（基準値2mg/ℓ以下）
SS	5.0mg/ℓ	5.0mg/ℓ	（基準値25mg/ℓ以下）

pH：水素イオン濃度、BOD：生物化学的酸素要求量、SS：浮遊物質量
（出典：富山市調べ）

イ 事業効果の発現状況

1 事業の目的に関する事項

- 本事業の実施により、各家庭から排出される生活雑排水が農業集落排水施設で処理されることによって、農業用排水路の水質改善が図られた。
- 集落内の各家庭において、トイレの水洗化や台所等の水回りの整備により、生活の快適性や利便性が向上した。

（H22 聞き取り）

ウ 事業により整備された施設の管理状況

- 污水处理施設及び管路施設の管理については、富山市が委託する専門の維持管理業者が行い、適正に管理されており、污水处理後の放流水質基準を満たしている。

処理水の水質 BOD 16.0mg/ℓ （基準値20mg/ℓ以下） （平成22年3月計測）
SS 6.0mg/ℓ （基準値50mg/ℓ以下）

BOD：生物化学的酸素要求量、SS：浮遊物質量
（出典：富山市調べ）

エ 事業実施による環境の変化

1 生活環境

- ・ 農業用排水路への生活雑排水の流入が少なくなったことから、水質が改善され、悪臭が減少し、生活環境が改善された。
- ・ くみ取り式から水洗化されたトイレは、悪臭及び蠅が減少し、生活環境が改善された。
(H22 聞き取り)

2 自然環境

- ・ 河川や農業用排水路において、事業実施前より水質が改善されたが、特に自然環境の変化はない。
(H22 聞き取り)

オ 社会経済情勢の変化

1 社会情勢の変化

- ・ 富山市は平成17年4月に富山市、大沢野町、大山町、八尾町、婦中町、山田村、細入村の7市町村が合併した。人口は平成7年の417,595人（合併前の旧7市町村合計）から平成17年の合併時には421,239人に増加したが、平成21年度末現在では417,322人と、減少が進んでいる。
- ・ 富山市の産業別就業人口を平成7年と平成17年で比較してみると、次のとおり第二次産業（建設業、製造業）の減少が目立っている。
平成7年度
第一次産業9,307人4.2%、第二次産業76,246人34.3%、第三次産業136,756人61.5%
平成17年度
第一次産業6,561人3.1%、第二次産業64,856人30.5%、第三次産業141,255人66.4%
(出典：富山市統計資料)

2 地域農業の動向

- ・ 三郷地区の動向を平成7年と平成17年で比較すると、次のとおり農地面積の減少及び農家戸数、就業人口の減少がみられる。
平成7年度：農地面積414ha、農家数278戸、農業就業人口290人、生産組織〇組織
平成17年度：農地面積360ha、農家数215戸、農業就業人口175人、生産組織〇組織
三郷地区の農業就業人口減少率は39.66%である。
(出典：農林業センサス、富山市統計資料)

3 その他

- ・ 富山市の污水处理人口普及率は、平成21年度末現在97.6%（污水处理人口／行政人口）となっており、富山県の平均92.8%を若干上回っている。
※污水处理人口＝下水道処理人口＋農業集落排水事業等整備人口＋合併処理浄化槽設置済人口＋コミュニティ・プラント処理人口
下水道処理人口：下水道によって供用開始している処理区域の定住人口
(出典：富山県の下水道)

カ 今後の課題等

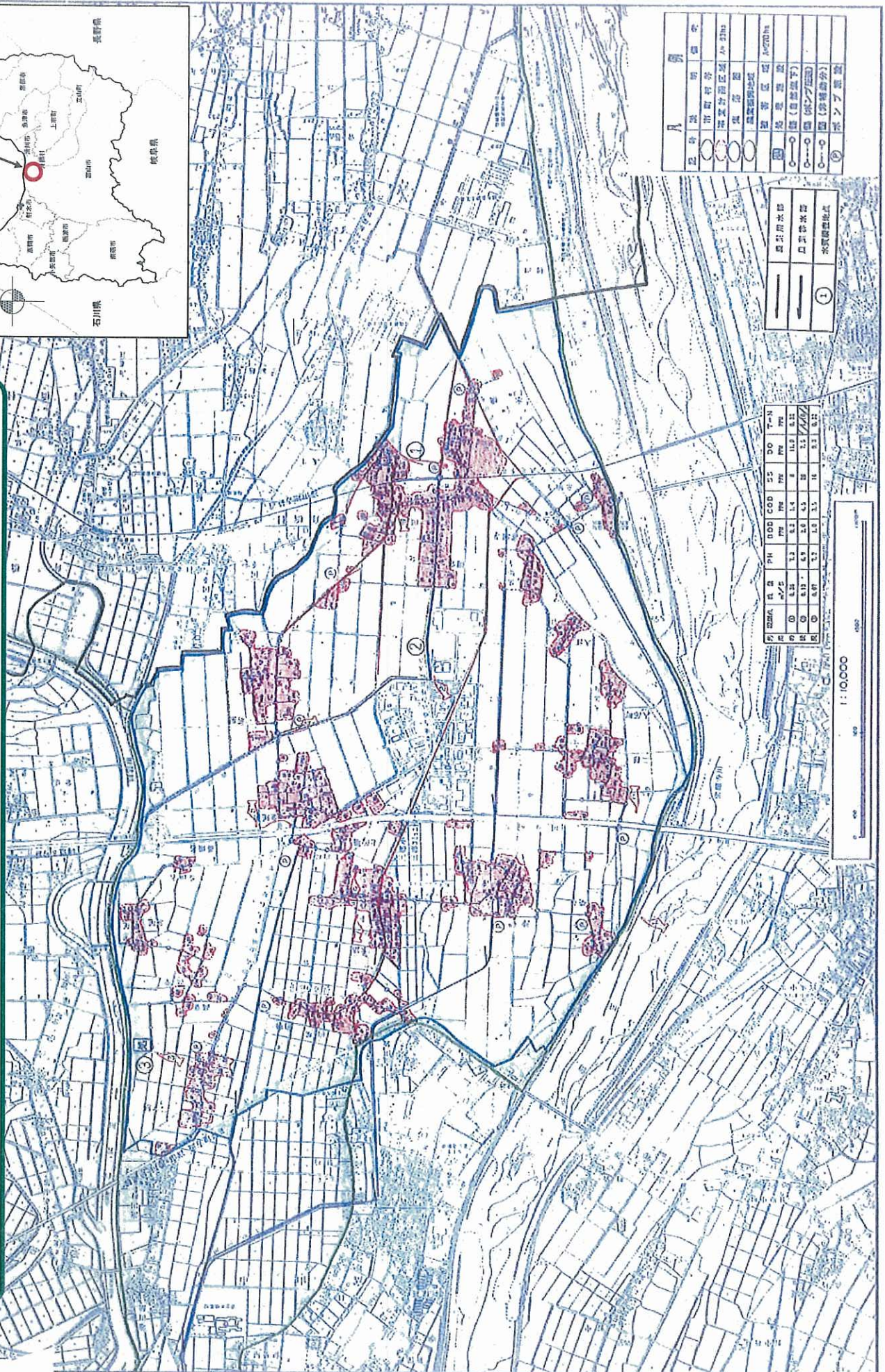
- ・ 農業用排水の水質や生活環境のさらなる向上を図るため、水洗化率の向上を進める必要がある。

事後評価結果

- ・ 汲み取りや浄化槽による単独処理であるし尿及び無処理である集落内の各家庭の生活雑排水の処理を行うことにより、河川や農業用排水路への汚水の流入が減少し水質の改善が図られたとともに、トイレの水洗化により生活環境が整備改善されたことから、事業の有効性が認められる。
- ・ しかし、水洗化率が69.0%であるため、農業用水の水質や生活環境のさらなる向上を図るため、水洗化率の向上を進める必要がある。

第三者の意見

- ・ 特段の意見なし。



(別紙様式 3)

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局 名	北陸農政局
-----	-------

都道府県名	石川県	関係市町村名	能美市 (旧能美郡辰口町)
事業名	農村総合整備事業	地区名	辰口地区
事業主体名	能美市 (旧辰口町)	事業完了年度	平成16年度

〔事業内容〕

事業目的：高齢者、障害者に配慮した社会資本整備、防災の観点から安心して生活できる基盤、地域の現状・特性を踏まえ個性豊かな地域づくりを図るため、農業生産基盤の整備及びこれと関連をもつ農村生活環境の整備を総合的に実施するとともに、併せて都市と農村の交流促進のための条件整備を推進し、活力ある農村地域社会の発展に資するため、農村総合整備事業を実施した。

受益面積：641ha

主要工事：①農業生産基盤整備

用排水施設整備 3路線 0.5km、農道整備 5路線 1.8km

②農村生活環境基盤整備

農業集落道 1路線 0.1km、農業集落排水 25路線 6.5km、
集落防災安全施設 3箇所、集落水辺環境整備 1箇所 0.1km、
集落緑化施設 2箇所

③農村交流基盤整備

コミュニティ施設 2箇所

総事業費：1,024 百万円

工 期：平成9年度～平成16年度（最終計画変更：平成16年度）

〔項 目〕

ア 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

1 農作物の生産量の変化

受益区域における農地はほとんど放棄されることなく耕作されている。

トマト、大根については農地集積が進み労働力の比較的少ない作物に移行されている。

(用排水施設整備区域の主な転作作物 大麦、農道整備区域の主な転作作物 大麦、大豆)

・用排水施設整備

〔作付面積〕

水稻：最終事業計画 8.3ha → 評価時点(平成21年) 5.5ha

調整水田：最終事業計画 ーha → 評価時点(平成21年) ーha

大豆：最終事業計画 1.3ha → 評価時点(平成21年) ーha

トマト：最終事業計画 0.3ha → 評価時点(平成21年) ーha

大麦：最終事業計画 ーha → 評価時点(平成21年) 1.6ha

・農道整備

〔作付面積〕

水稻：最終事業計画18.4ha → 評価時点(平成21年)11.3ha

トマト：最終事業計画 8.6ha → 評価時点(平成21年) ーha

大根(裏作)：最終事業計画 8.6ha → 評価時点(平成21年) ーha

大麦：最終事業計画 0.0ha → 評価時点(平成21年) 9.1ha

大豆：最終事業計画 0.0ha → 評価時点(平成21年) 3.0ha

(出典：能美市農政課水田利活用実績調書)

2 維持管理費の節減

・土水路からフリーム水路等への変更による溝掘り、草刈り等の経費節減、砂利道からアスファルト道への変更による砂利補充、草刈り等の経費節減が図られている。

〔年間当たりの維持管理経費〕

用排水施設整備 事業実施前(平成16年) 1,659千円 → 計画 86千円

農道整備 事業実施前(平成16年) 1,401千円 → 計画 201千円

(資料：事業計画概要書)

- ・ 農道整備(農道5号)に関する聞き取りを行った結果、7割の方から「維持管理が軽減された」と回答があった。

(出典：H22聞き取り)

イ 事業効果の発現状況

1 事業の目的に関する事項

① 農業生産性の向上(用排水施設整備)

水稻：事業実施前(平成4～9年平均) 526kg/10a

→ 評価時点(平成17～21年平均) 540kg/10a

(出典：石川農林水産統計年報(平成6年は干ばつのため収量が少ないことから平均から除外))

※事業実施前のデータは、旧辰口、寺井、根上町の平均値

② 農作業効率の改善(農道整備)

- ・ 砂利道であった農道をアスファルト舗装することにより、通作及び農産物の輸送等の作業効率化が図られている。
- ・ 農道整備(農道5号)に関する聞き取りを行った結果、7割の方から「輸送等の軽減が図られた」と回答があった。

(出典：H22聞き取り)

③ 農業集落環境条件の改善(農業集落道整備、農業集落排水路整備)

- ・ 農業集落道や農業集落排水の整備により、通作条件の改善や利便性の向上、緊急時の避難路が確保されている。

④ 地域の生活環境の向上(集落防災安全施設整備、集落水辺環境整備、集落緑化施設整備、コミュニティ施設)

- ・ 集落防災安全施設整備により整備された街路灯は、計画区域の北部に位置する11集落の通学路となっており、夜間の帰宅時にも安心できる環境整備がはかられた。
- ・ 集落防災安全施設(街路灯：宮竹、灯台笹集落)に関する聞き取りを行った結果、8割の方から「防犯面での効果があった」「交通の安全面での効果があった」と回答があった。
- ・ 集落緑化施設は岩本町、徳久町に設置されており、町内会や老人会などにより、花上や除草・水やり等の管理が行われ農村景観の向上と地域コミュニティの向上に役立っている。
- ・ コミュニティ施設は岩内町、下開発町に設置されており、公民館活動や老人会や青壮年団の活動に利用され、地域コミュニティの向上が図られた。また、災害時の収容・防災上の拠点施設として防災機能の向上が図られたことにより、安心した生活が確保された。
- ・ コミュニティ施設(岩内町)に関する聞き取りを行った結果、6割の方から「住民間のつながりが増加した」7割の方から「避難場所があることで安心感が増した」と回答があった。

(平成22年聞き取り)

2 土地改良長期計画における施策と目指す成果

「やすらぎのまち・うるおいのまち・いきおいのまち」

環境施設の整備は、地域住民の生活環境の向上や自然環境との調和に配慮した施設となっており、地域住民はもとより訪れる人たちのやすらぎの場として利用されている。

生産基盤整備は事業実施を契機として担い手が育成されるとともに農地集積が進展し効率的な農業経営につながり、うるおいを与えている。

① 生産、販売体制の管理ができる経営体の育成

認定農業者 増 51経営体 (平成16年：31経営体→平成22年：82経営体)

※能美市全体 (出典：能美市「農業委員会農家台帳面積」)

② 意欲と能力のある経営体への農地利用集積

利用集積率 増 14.6% (平成17年：18.8%、平成22年：33.4%)

※能美市全体 (出典：能美市「農業委員会農家台帳面積」)

ウ 事業により整備された施設の管理状況

事業により造成された施設の日常的な管理は各集落で行われており、適正な状態にある。

エ 事業実施による環境の変化

1 生活環境

本事業により整備した集落排水路(排水路の暗渠化)、農業集落道(道路の拡幅)、集落防災安全施設(街路灯の設置)、集落緑化施設により、防災機能の向上が図られ、安心し

て生活出来る環境が整い、地区内の人口も増加している。
 事業区域人口： 増 1,250人（事業地域 平成7年：11,712人→平成22年：12,962人）
 ※能美市全体（出典：能美市「地区別人口集計表」）

- 2 自然環境
 本事業による大きな変化は見られない。

オ 社会経済情勢の変化

1 社会情勢の変化

- ・ 能美市の第1次産業就業者数は平成7年の732人から平成17年には479人と34.6%（253人）減少しており、石川県全体の減少率31.8%（平成7年：34,066人→平成17年23,237人 △10,829人）と比較すると平均以上に減少していることになる。
- ・ 能美市の第2次産業就業者数は平成7年の10,962人から平成17年には10,241人と6.6%（721人）減少しており、石川県全体の減少率16.5%（平成7年：211,731人→平成17年176,786人 △34,945人）と比較する約10%減少率は少ない。
- ・ 能美市の第3次産業就業者数は平成7年の11,160人から平成17年には13,579人と21.7%（2,419人）増加しており、石川県全体の増加率1.4%（平成7年：384,397人→平成17年389,749人 5,352人）と比較しても大きい

（出典：国勢調査（1995, 2005））

※平成7年能美市データについては旧辰口、寺井、根上町の合計とする。

2 地域農業の動向

能美市の農地面積は、平成8年の1,999haから平成20年には1,920haと4.0%（79ha）減少しており、石川県全体の減少率9.1%（平成8年：48,100ha→平成20年：43,700ha△4,400ha）と比較すると小さい。

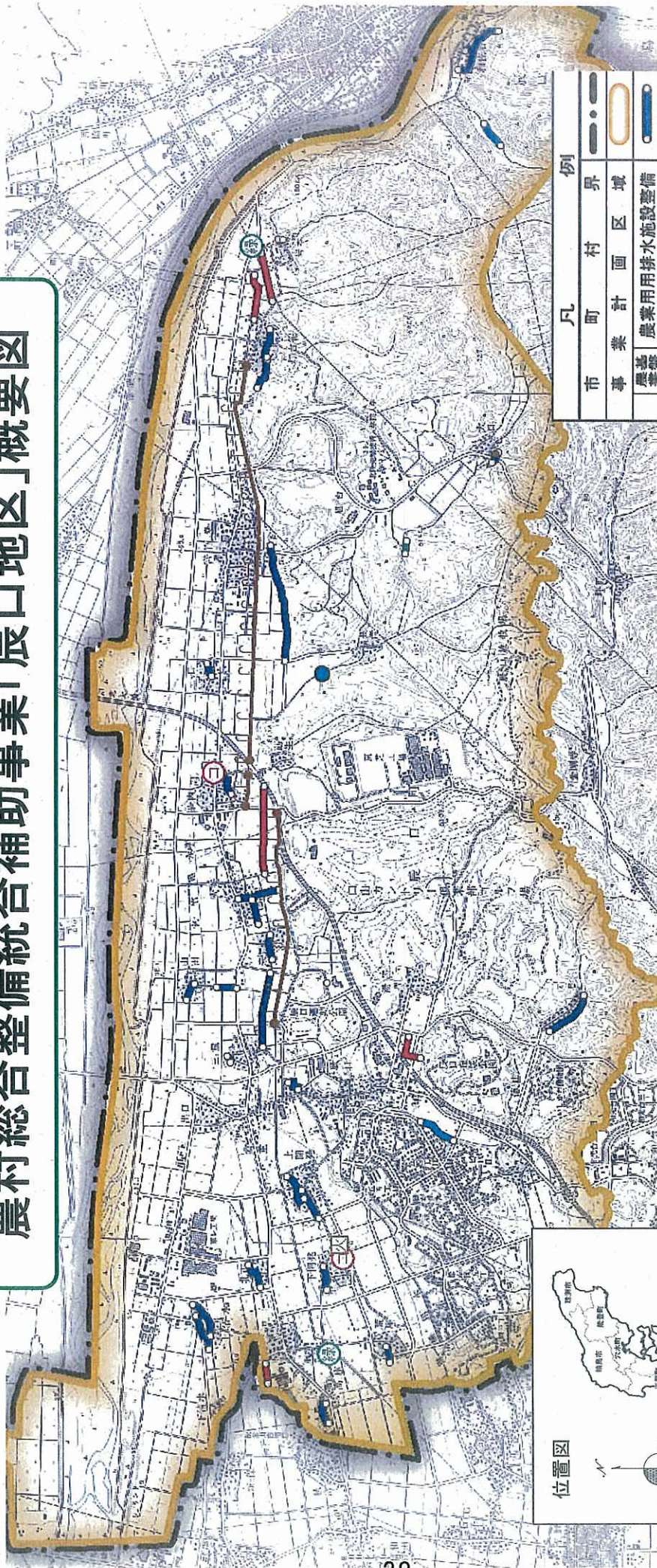
（出典：石川農林水産統計年報（平成8～9年）、同（平成20～21年））

カ 今後の課題等

農産物の営農指導、経営指導を含め、更なる販路拡大及びブランド化に取り組むことが課題である。

事後評価結果	・ ボトルネックとなっていた用排水施設と農道整備を改修したことにより、効率的な生産性を行うための基盤が整った。 ・ また、本事業を契機に整備された集落内道路により緊急車両の集落内への進入や歩行者の安全な通行が確保されたこと等、生活環境も向上され、事業の有効性が認められる。 ・ 今後は、農産物の営農指導、経営指導を含め、更なる販路拡大及びブランド化に取り組むことが重要である。
第三者の意見	・ 本事業の実施を通じて、効率的な生産を行うための基盤が整備されるとともに、本事業を契機として新旧住民の交流が促進された。 ・ また、緊急車両が集落内へ進入可能となる集落内道路が確保される等、生活環境の向上効果が確認された。

農村総合整備統合補助事業「辰口地区」概要図



市	町	村	界	例
基盤整備 農業生産	農業用水施設整備	農道整備	農業集落排水施設整備	   
農地整備 農村生活環境	集落防犯安全施設(防火水槽)	集落防犯安全施設(街路灯)	集落防犯安全施設(梁)	   
基盤整備 農業生産	水辺環境整備	コミュニティ施設整備		 
整備	計画			



(別紙様式 3)

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局 名	北陸農政局
-----	-------

都道府県名	石川県	関係市町村名	輪島市、(旧門前町、穴水町、旧能都町、旧柳田村)
事業名	田園空間整備事業 (のとやすらぎの郷整備事業)	地区名	能登北部地区
事業主体名	石川県、輪島市、(旧門前町)、穴水町(旧能都町、旧柳田村)	事業完了年度	平成16年度
〔事業内容〕 事業目的：奥能登の農村は、豊かな自然と伝統文化が相まって素晴らしい景観を醸し出している。よって、地域住民が自ら誇りを持って、自らの地域を見直し再発見するために各地域独自の文化や資源を整備し、併せて地域の既存施設と連携することにより、都市住民が地域全体を生きた農文化博物館として各地域を探訪することにより、地域資源を見直し、心の豊かさを地域の活性化向上に繋げていく。 計画区域：面積 76,772ha 人口 66,545人 農家人口 28,387人 農家戸数 7,323戸 主要工事：田園空間整備 農業集落道 2,526.5m、集落水辺環境整備 1 式、集落緑化施設整備 3 ヶ所、コミュニティ施設 4 ヶ所、景観保全整備 6 ヶ所、集落排水路整備 448.6m、農村公園緑地整備 1 ヶ所、歩行者専用遊歩道 2,311.5m 特認事業 地域資源利活用施設 1 ヶ所 整備推進費 1 式 総事業費：1,583百万円(決算ベース) 工期：平成10年度～平成16年度(計画変更：平成14年度)			
〔項目〕 ア 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化 該当なし イ 事業効果の発現状況 1 事業の目的に関する事項 ① 伝統的農業施設や美しい農村景観等の保全 - 輪島市門前町浦上では、かつての特産であったそば畑を再現するとともに、周囲との景観にマッチした水車小屋の整備により栽培から粉ひき、手打ちまで昔ながらのそばづくりが実施されている。 - 輪島市三井町では、「茅葺きの郷」のコンセプトのもとに茅葺農家の保全復元や地域に点在する茅葺農家、茅葺神社の散策道を整備し、景観の保全のみならず来訪者の利便性に配慮している。 ② 都市と農村の共生による地域の活性化 - 輪島市門前町浦上に整備されたあすなろ交流施設では、5月のゴールデンウィークに開催される「竹の子と山菜の市」や11月に開催される「浦上の里まつり」などのイベントが開催され、地域住民ばかりでなく都市住民との交流が盛んに行われている。 - 輪島市三井町では、茅葺農家を利用して都心の大学生を受け入れ農業体験などを実践や、「かや〜て」(茅と档の造語)のキャンドルによる茅葺農家をライトアップするイベントを開催するなど都市住民との交流を図っている。 - 輪島市白米の千枚田では、1枚当たり平均3坪という小さな棚田のため機械化が進まず、さらには過疎化・高齢化による労働力不足のため、地域の農家だけでは維持で			

きない状態であった。このため、都市住民からボランティアを募り、田植えや稲刈り体験の実施や、稲刈りに併せ千枚田結婚式のイベントを開催するなど都市住民との交流を積極的に実施している。なお、当該事業では、棚田の中の散策道を整備し、来訪者の利便性に配慮している。

- ・ 穴水町四村地区（上中、越渡、桂谷、大角間）では、深紅の宝石とも呼ばれる能登峨山キリシマツツジの産地となっており、主要な道路に案内看板を設置し、来訪者の利便性を図っている。毎年、5月や10月には能登キリシマツツジの即売会が開催され多くの愛好家が苗木を求めて訪れている。
- ・ 能登町真脇では、真脇遺跡縄文館に隣接する場所に古代農業体験村が整備され、約30aにおいて古代水田が復元され赤米など各種古代米の田植えや稲刈りを体験することができ、毎年多くの人が体験に参加している。
- ・ 能登町宮地の山間には、「春蘭の里」と呼ばれる農家に宿泊して農業体験をしながら田舎暮らしを楽しむ農家民宿が、平成9年の1軒から現在24軒まで増加し、年間3千人以上が訪れるなど都市住民との交流人口の拡大が図られている。本事業では、宮地集落や隣の鮭尾集落で集落排水整備などが実施され地域の景観保全に寄与している。

2 土地改良長期計画における施策と目指す成果

「都市と農村の共生・対流を実現する農村地域の総合的な振興」

整備施設は、地域住民の生活環境の向上や潤いを与えるとともに地域の多彩なイベント等が実施され地域住民のみならず都市住民との交流人口の拡大に寄与している。

ウ 事業により整備された施設の管理状況

県で整備された施設は関係市町村へ譲与され、現在関係市町で適切に管理されている。

また、各市町村で整備された施設については、現在関係市町で管理され、日常的な管理については各種地域協議会等へ管理委託され適切に管理されている。

エ 事業実施による環境の変化

1 生活環境

コミュニティ施設、景観保全施設などが整備されたことにより、新たな交流人口の拡大につながるとともに、地域の活性化に寄与している。

2 自然環境

奥能登地域の海岸沿線は、風光明媚な能登半島国定公園が広がっており、内陸部でも今なお日本の原風景が多く残っている地域である。整備された施設は、これら自然環境に配慮して造成されており、自然環境と調和している。

オ 社会経済情勢の変化

1 社会情勢の変化

- ・ 地区全体の人口は、平成7年の74,776人から平成17年には65,164人と12.9%減少しているものの、石川県全体では減少率0.5%とほぼ横ばい（平成7年：1,180,068人→平成17年：1,174,026人）となっている。

（出典：国勢調査）

- ・ 第1次産業就業者数（地区全体）は平成7年の8,317人から平成17年には5,282人と36.5%（3,035人）減少しており、石川県全体の減少率31.8%（平成7年：34,066人→平成17年：23,237人）と比較し減少率が大きくなっている。

（出典：農林業センサス）

- ・ 第2次産業就業者数（地区全体）は平成7年の13,546人から平成17年には8,747人と35.4%（4,799人）減少しており、石川県全体の減少率16.5%（平成7年：211,731人→平成17年：176,786人）と比較し倍以上の減少率となっている。

（出典：農林業センサス）

- ・ 第3次産業就業者数（地区全体）は平成7年の18,340人から平成17年には17,440人と4.9%（900人）と減少率は小さいものの、石川県全体では逆に1.4%増（平成7年：384,397人→平成17年：389,749人）となっている。

（出典：農林業センサス）

※ なお、地区全体は、旧輪島市、門前町、穴水町、能都町、柳田村、内浦町の合計としている。

2 地域農業の動向

- ・ 地区全体の農家戸数は、平成7年の8,055戸から平成17年の6,063戸と24.7%の減少となっており、石川県全体でも同様な減少率（平成7年：41,894→平成17年：31,652戸）となっている。

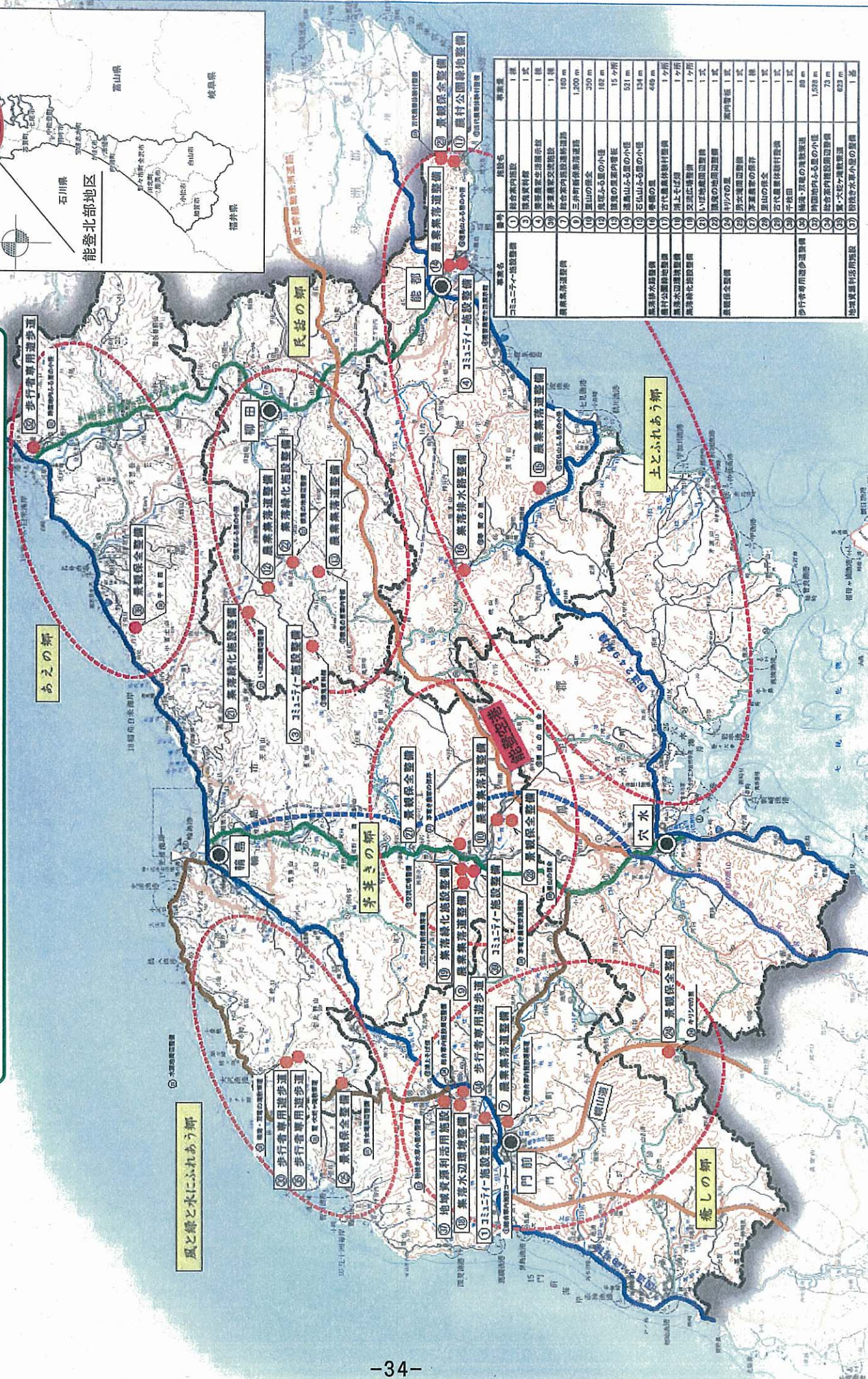
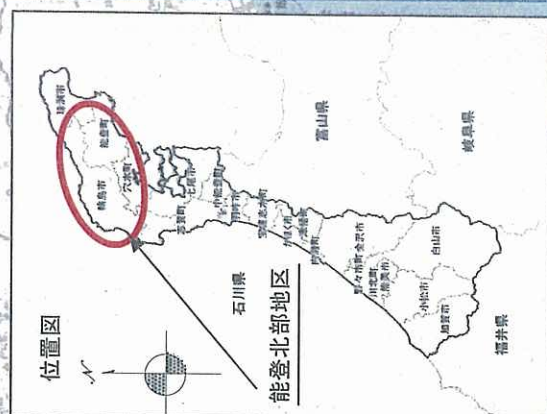
- ・ 地区全体の農地は、平成7年の6,988haから平成17年の6,160haと11.8%減少しており、石川県全体の8.4%より若干多い減少率（平成7年：48,600ha→平成17年：44,500ha）となっている。

カ 今後の課題等

奥能登地域は、周りが日本海に囲まれ自然豊かで、季節に富んだ山の幸、海の幸が豊富であり、かつ、多彩な祭りが行われ、観光産業等と連携を図った交流人口の一層の拡大を図っていくことが重要であり、これを契機として、地域活性化、農林水産業の活性化に取り組む必要がある。

事後評価結果	・ 地域ごとの核となる施設を中心に、コミュニティ施設や集落道路等の整備が行われたことにより、農村特有の伝統文化や資源を活用した地域の活性化に寄与しており、事業の有効性が認められる。 ・ 今後、観光産業等と連携を図った交流人口の一層の拡大を図っていくことが重要であり、これを契機として、地域活性化、農林水産業の活性化に取り組む必要がある。
第三者の意見	・ 特段の意見なし。

位置図



事業名	管外	屋敷名	専有量
コミュニティセンター施設整備	(1)	総合管内施設	1 式
	(2)	陸奥県庁舎	1 式
	(3)	陸奥県立生涯学習館	1 棟
	(4)	青森県立生涯学習館	1 棟
	(5)	青森県立生涯学習館	1 棟
県民体育センター施設整備	(1)	総合管内施設	100 m
	(2)	三井物産所南港道路	1,200 m
	(3)	三井物産所南港道路	200 m
	(4)	里山の保全	182 m
	(5)	奥平ふるまの小道	15 分所
	(6)	奥平の里山内帯	521 m
	(7)	遠山ふるまの小道	134 m
	(8)	石仏ふるまの小道	440 m
森林水産整備	(1)	香の里	1 分所
公園管理施設整備	(1)	古代農業体験村整備	1 分所
水産施設整備	(1)	湖上そば屋	1 分所
水産施設整備	(1)	交流広場整備	1 式
海岸沿地帯施設整備	(1)	いばし海岸迎賓館	1 式
	(2)	漁業の活用迎賓館	1 式
漁業施設整備	(1)	漁業の活用迎賓館	1 式
	(2)	湖上の里	1 式
	(3)	湖上の里	1 式
	(4)	湖上の里	1 式
	(5)	湖上の里	1 式
	(6)	湖上の里	1 式
	(7)	湖上の里	1 式
	(8)	湖上の里	1 式
	(9)	湖上の里	1 式
	(10)	湖上の里	1 式
	(11)	湖上の里	1 式
	(12)	湖上の里	1 式
	(13)	湖上の里	1 式
	(14)	湖上の里	1 式
	(15)	湖上の里	1 式
	(16)	湖上の里	1 式
	(17)	湖上の里	1 式
	(18)	湖上の里	1 式
	(19)	湖上の里	1 式
	(20)	湖上の里	1 式
	(21)	湖上の里	1 式
	(22)	湖上の里	1 式
	(23)	湖上の里	1 式
	(24)	湖上の里	1 式
	(25)	湖上の里	1 式
	(26)	湖上の里	1 式
	(27)	湖上の里	1 式
	(28)	湖上の里	1 式
	(29)	湖上の里	1 式
	(30)	湖上の里	1 式
	(31)	湖上の里	1 式
	(32)	湖上の里	1 式
	(33)	湖上の里	1 式
	(34)	湖上の里	1 式
	(35)	湖上の里	1 式
	(36)	湖上の里	1 式
	(37)	湖上の里	1 式
	(38)	湖上の里	1 式
	(39)	湖上の里	1 式
	(40)	湖上の里	1 式
	(41)	湖上の里	1 式
	(42)	湖上の里	1 式
	(43)	湖上の里	1 式
	(44)	湖上の里	1 式
	(45)	湖上の里	1 式
	(46)	湖上の里	1 式
	(47)	湖上の里	1 式
	(48)	湖上の里	1 式
	(49)	湖上の里	1 式
	(50)	湖上の里	1 式
	(51)	湖上の里	1 式
	(52)	湖上の里	1 式
	(53)	湖上の里	1 式
	(54)	湖上の里	1 式
	(55)	湖上の里	1 式
	(56)	湖上の里	1 式
	(57)	湖上の里	1 式
	(58)	湖上の里	1 式
	(59)	湖上の里	1 式
	(60)	湖上の里	1 式
	(61)	湖上の里	1 式
	(62)	湖上の里	1 式
	(63)	湖上の里	1 式
	(64)	湖上の里	1 式
	(65)	湖上の里	1 式
	(66)	湖上の里	1 式
	(67)	湖上の里	1 式
	(68)	湖上の里	1 式
	(69)	湖上の里	1 式
	(70)	湖上の里	1 式
	(71)	湖上の里	1 式
	(72)	湖上の里	1 式
	(73)	湖上の里	1 式
	(74)	湖上の里	1 式
	(75)	湖上の里	1 式
	(76)	湖上の里	1 式
	(77)	湖上の里	1 式
	(78)	湖上の里	1 式
	(79)	湖上の里	1 式
	(80)	湖上の里	1 式
	(81)	湖上の里	1 式
	(82)	湖上の里	1 式
	(83)	湖上の里	1 式
	(84)	湖上の里	1 式
	(85)	湖上の里	1 式
	(86)	湖上の里	1 式
	(87)	湖上の里	1 式
	(88)	湖上の里	1 式
	(89)	湖上の里	1 式
	(90)	湖上の里	1 式
	(91)	湖上の里	1 式
	(92)	湖上の里	1 式
	(93)	湖上の里	1 式
	(94)	湖上の里	1 式
	(95)	湖上の里	1 式
	(96)	湖上の里	1 式
	(97)	湖上の里	1 式
	(98)	湖上の里	1 式
	(99)	湖上の里	1 式
	(100)	湖上の里	1 式